

4 星座早見盤の使い方

星座早見盤は、星図盤（赤経・赤緯の入った星図の縁に月日の目盛を打った円盤）に地平盤（地平線で窓をくり抜いた円盤の縁に時刻目盛が入っている）を重ねて、北極星の回りに回転（日周運動）できるようになっています。月日目盛は太陽の位置に対応し、星図盤内に黄道と太陽位置の日付が書いてあれば、その延長上の縁に同じ月日があります。時刻目盛は太陽の南中方向（真南）を 12 時として打ってあります。

その日のその時刻に目盛を合わせて、早見盤を上方にかざすと、その時の星空が見えることはご存知でしょうが、他にもいろいろ便利な使い方があります。

- 星図盤内に黄道と太陽位置の日付がなくても、月日目盛からその日の太陽の星座間の位置が分かります。
- 星や太陽の高度・方位は、窓の中のスケールで読みとることができます。
- 星や太陽の出・入の時刻と方位が分かります。その日の太陽またはある星の位置に東の地平線を重ねると、窓のスケールから出の方位を、その日に重なった時刻目盛から出の時刻を読みとれます。入も同様です。
- ある星に南北線を重ねると、その日のその星の南中時刻が分かります。
- その時見える星を用いて方位を決めることができます（星コンパス）。
- 時計がなかったら、やはり星を用いて時刻も決めることができます（星時計）。

星時計の具体例を説明しておきましょう（図 5）。早見盤の中心を北極星の方に向けて、その時見える北斗七星とカシオペア座と同じ位置に合うまで回転させます。そのまま動かさないように持って、北の地平線の部分が真横になるように地平盤だけ回転させます。その時にその日の目盛に合った時刻目盛を読めば、時刻が分かります。例えば北の星空が図 5 のようになっていれば、その日が 11 月 7 日だと 4 時、1 月 7 日だと 0 時、3 月 7 日だと 20 時というわけです。

最後に気をつけて欲しいのは、いちばんポピュラーな片面型早見盤の星図盤の縁の方に描いてある南天の星座は、形がかなりゆがんで平べったくなっていることです。これは投影法のためです。

図 5 星を用いて時刻を決める

